

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

今年もお盆の季節になりました



コロナもようやく下火...というか、ウィズコロナになりつつありますね。いいことだと思います。宝泉寺のお盆会も3年ぶりに開催の予定！うれしい限りです。予断は許しません。

お寺では良いことと悲しいことが一つずつ。まずは良いこと。事務方の専門職に一人仲間が増えました。ご紹介のコーナーをご覧ください。悲しいこと。アヒルちゃん、野生動物に食べられてしまいました！一羽「と金ちゃん」は大けがで療養中...かわいいう二羽のアヒルちゃんの冥福を祈りつつ、生き残ったと金ちゃんを看病しています。元気がなったらまたご紹介します。合掌。

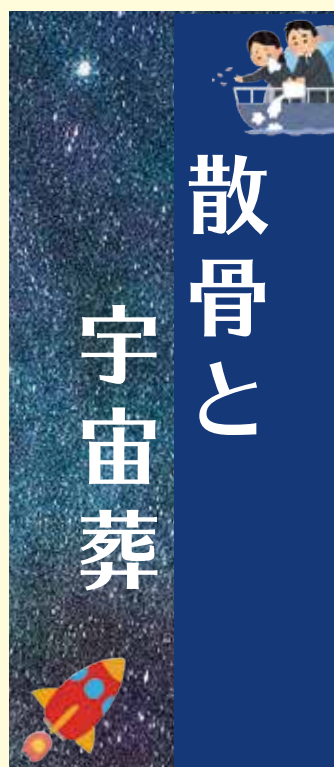
お盆の飾り をしめしよう



- ① テーブルにマコモを敷く
- ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③ 位牌・香炉・燭台・花等を飾る
- ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子(みずのこ)」
- ⑥ 膳をつくり供える
- ⑦ その他、そのめん、果物など夏の食物を供える

散骨と

宇宙葬



先日ある方とお話ししておりましたら、「主人が骨は海に撒けばいい、ついでうんですよ。どうしたらいいんですかねえ」と聞かれました。よほどの海好きか、と思つたら、「全然。海水浴もいかない」うーん、お気楽に考えてはいけませんよ、お骨全部撒けませんし、法律に引つ掛かる可能性もありますし、と申し上げました。

美しい山岳の中で自然に還るなんてロマンチックですしね。ちなみに先日行われた故石原慎太郎元知事も海洋散骨されていました。ご子息が故人の所有したヨットで沖に出で...かっこいいですねえ。オトウサンたちがあそこがれるのも解ります。しかし散骨に供されたのはお骨の一部で、ほとんどのお骨は逗子市のお寺に埋葬されています。このお骨の一部を機械で細かく砕いて粉状にしたもの。ん？機械で粉状？ちよつと嫌だなあ。なんだか散骨の現実が見えてきました。ロマンチックに浸っているのはご本人ばかり、それを行う家族には、なんだかんだの負担が増えるみたいです。ネットを見ると海洋、山岳散骨の業者はたくさんありますが、地元漁協などの許可を得ているところと無許可のところがあるようです。前述のとおり山岳散骨は全部違法業者です。

町時代に貴族階級の墓地への埋葬が行われるようになり、江戸中期以降は庶民にも墓地埋葬は一般的となりました。寺や、村のなかに共同墓地を作り、そこへ行けば、愛する故人と再会できる、いつも近くで見守ってくれている。そういう安心感は大変なものですね。墓は単なる記念碑ではありません。先祖より受け継いだ命を生き、縁の中で生きた自分、

そしていろんな形で後世につながるっていく命のすがた、それらを結ぶ一点地がお墓の役割です。納骨堂や樹木葬でもそれは変わらないもの。故人をしのぶということは今を生きる私の命のありがたさを感じるということ。ロマンチックもいいですが、海に撒け、山に撒けなどと、自分が死んだ後のことまでとやかく言わないのも、大事なことですよ。

新しい仲間がふえました！

この度 宝泉寺に新しくスタッフを迎えることになりました。働き盛りの40代。昔でいうところの寺男。肩書は「寺の務め」で寺務長さん。お寺の中や、霊園管理事務所におります。こ来山や電話の折、お話しただくことになると思います。どうぞよろしく。住職



はじめまして！
宝泉寺の寺務長としてお手伝いをさせていただきますことになりました、関根謙一と申します。

すでにご縁があった方もいらつしやるかと思ひますが、前職では、仏壇店に20年ほど勤務しておりました。そこでは、お仏壇まわりの事はもちろん、お墓、ご葬儀に関しても勉強いたしました。そのほか、仏壇・仏具、その他の仏事関係に関してもお気軽に相談いただけます。

宝泉寺とのご縁は、元々は業者としてのお付き合いだったのですが、ご住職が高校の先輩（今は無き、都立南多摩高校）であることが偶然分り、それ以来、業者として、後輩として深くお付き合いさせていただいております。

個人的なプロフィールとしては、昭和52年生まれの45才。生まれは青梅市ですが、2才の時に八王子へ。小中高大全てを八王子で過ごす、地元大好き人間です。

いつでもお気軽にお声がけいただければ幸いです。皆さまのお役に立てるよう努めてまいりますので、どうぞ末永く、よろしくお願い申し上げます。

恵海日記

えかいにつぎ

この頃宝泉寺のご法事等で檀信徒の方から「えかいさん」と名前で呼んで頂く事が増えてきました。氣さくに話しかけて頂けるのが本当に嬉しく、また有難く思っております。氣が付けばもう何年もこちらで勤めさせて頂いております。中にはお会いするのが数回目と言う方もおられます。今から10年以上前にバンドをやっていた頃は、ステージ上で「名前だけでも憶えて帰って下さい」と言っても反応が無く、箸にも棒にも掛からず辛い思いもしましたが、私に音楽の才能が無かったお陰で今こうしてご縁を頂いているのだと思うと「これで良かったんだなあ」としみじみ思います。



南禅寺法堂

山式当日であり、前々日の4日から京都にお手伝いに行っておりまして。コロナ禍で無ければ盛大に行われるはずであり、南禅寺専門道場出身の和尚様方も多数声がかかるはずだったので、私が規模を縮小しての開催でありました。私は若手の副住職で、比較的時間の融通が利くという事もあり幸運にもお声をかけて頂き参加する事が叶いました。コロナ対策の為に大勢での会食や祝宴等が出来ない状況ではありましたが、普段中々会えない先輩方と再会してマスク越しに懐かしい修行時代の話や近況報告等をしました。

私は主に裏方担当でしたので当日の式の様子を全て見る事は叶わなかったのですが、現場の和尚様方のご厚意により途中から少しだけ見せて頂く事が出来ました。厳肅な空気の中で式が進行し、普段はユーモアたっぷりで私を笑わせてくれる先輩が真剣な表情で大役をこなす姿は流石と言わざるを得ませんでした。管長様が法語をお唱えする場面では、法堂の入り口から式を見学されていたご婦人がずつと一心に合掌をされている姿が印象的でありました。管長様もご婦人も共に「思わず合掌せずにはいられない」そう感じさせるお姿でございました。

無事に式が終わり、何とか自分の役目も果たせた事と思います。微力ながら大本山南禅寺の大きな節目の行事に関われた事が大変誇らしいです。南禅寺派僧侶としての自覚を新たにするととても良い機会となりました。

ここ宝泉寺でも親しく接して頂ける方が増えた今、改めて私も臨済宗南禅寺派僧侶の一人として檀信徒の方から「この人にお勤めしてもらえてよかった」と思ってもらえる様に精進して参ります。

法話のコリーナ



地震雷火事親爺、といえ「天災」のとしてわが身に降りかかる「怖いもの」のたとえ。昔は親爺は天災なみに怖いものだったんですね。今はどうか？親父となつた自分の胸に手を当てる考えたりして…

これは「地震」から怖い順に並んでいるんだそうです。オヤジは確かに怖いけど、まあお酒注いでやったり、話を聞いたりして、こちらが氣を利かせてやり過ぎる（先代との体験談）。火事は確かに大変だけど、自分で火の元に氣を付けることはできる。いつ撃たれるかわからない雷もゴロゴロ鳴つたら家の中に避難する。地震となると、逃げない。これが一番怖い、ということなのでしょう。

だからこれは地震の怖さを教えるための言葉でもあるそうです。自分の心がけ次第で、大概の怖さは防げるけれど、地震だけはどうにもならない。つまり「どうにもできない順」にならんでいるともいえるのです。自分の心がけの届かないところに、我々の苦勞があるということです。過去の二つの大震災で我々が嫌というほど感じたことです。

般若心經にあるように、私たちは、世の中を認識するのに、眼、耳、鼻、舌や皮膚などの感覚を通して行っています。（眼耳鼻舌身意）そこから得られた情報を脳みそでまとめて

「世界はこうなってる」とわかる。そうして、見たり聞いたり嗅いだり味わったり触ったり、様々に世の中から刺激を受けて、心（意識）が、うれしいな、悲しいな、怖いな、などと感じるわけです。

しかし心のありようは人それぞれ。地震にはみんなオロオロするものですが、親爺が向こうから来ただけは、怖がる人もいれば、あたりまえですが全然平氣の人もいます。同じ外からの刺激に対して心置き所によって、変わってくるというわけです。

自分の目鼻の外、皮膚の外側のもの（地震雷火の）ような出来事や、人と話したりすることなどは自分でコントロールできないものです。天災は忘れたころにやってくるし、他人の心なんてわかっていうようであつてほしいと思ってしまう。でもそうはいきません。自分の思い通りにならないことを古い言葉で「苦」というのだそうです。

子どもの虐待、という悲しいニュースを聞くことがあります。親の方は必ず「しつけのためだった」と言い訳をする。いつも思うのです。小さな子供は言葉も社会性も未熟で真つ白の状態です。だから大人の予想外のことをします。言ってみれば小さな天災のようなもの。これから過ぎてゆく社会の中で、快適に過

すルールを学ぶのが「しつけ」というもので、真つ白な子供を自分で「どうにかしよう」とするのがしつけではありません。本来自分のコントロールの及ばないものにまで無理に言うことを聞かせようとするから、そこに無理が生じて苦しくなる。思わず力で何とかしようとする。虐待する本人もされる側も、救いが無いのが、本当に残念です。

天災も、話の通じない隣人も、いうことを聞かない嫁や息子も、確かに自分にとつて「苦」なのですが、その原因は、実は自分ではどうしようもないことを、どうにかしようとする自分の心にある。自分以外の人たちも、自分を取り巻いている自然も、本来自分のコントロールの効かない「外側」にある。にもかかわらず、自分の思う通りに動かそう、でも動いてくれない、と思うから「苦しい」になるのです。

自分がどうにかできるのは「自分の中」だけ。地震や雷火事親爺のように、自分でコントロールできないのが当たり前の世の中であつて、どのように考え、どのように動かすか、自分の心のありようなのだから、自分でどうにかしよう、というのが仏道修行ということなのでしょう。

住職

LINEで直接住職と!



LINE QR コード



YouTube

霊園だより

梅雨空の下、蒸し暑くじめじめとした日が続きます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回の寺報で紹介されておりますが、宝泉寺寺務長として関根謙二氏が就任されました。

南霊園管理事務所にも詰めていただくようになりまして、今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて間もなくお盆の時期がやってまいります。本年度は久々に宝泉寺別院において「孟蘭盆会総供養」がおこなわれます。

長引くコロナ禍もワクチン摂取等の条件付きながらも、旅行・観光など順次再開され始めてきています。

管理事務所におきましても、通常通りお花・線香のご用意をしてお墓参りの皆様をお待ちしております。まだ外出をお控えになつている方々にも供花を1500円、その他墓地掃除（お石塔拭き5000円など）も承っておりますのでぜひご利用ください。末筆ではございますが益々のご健康をお祈り申し上げます。

管理事務所 畑山

オススメ図書

日本臨済宗開祖、明庵栄西禅師の足跡をたどる紀行記。栄西の読み方は、えいさいではなく「ようさい」なんです。禅師の年齢に沿って日本中国の史跡を歩く。現代の風景を目にしながら、800年以上前の当時の人々たちの思いをはせ、ひたすらに仏道成就を目指す栄西をはじめたくさんの禅僧たちの姿が胸を打ちます。

宮脇隆平著
禅文化研究所刊1300円

